

一般社団法人 兵庫県老人福祉事業協会

ふけはし

Contents

特集	老人福祉計画 (第9期介護保険事業支援計画)	2~3
	研修会報告	4
	ブロック通信/部会委員会通信	5
	会員紹介	6~7
	事務局からのお知らせ	8



を策定しました

兵庫県福祉部高齢政策課

兵庫県では、令和6年3月、2024(令和6)年度から2026(令和8)年度までの3年間を計画期間とする「兵庫県老人福祉計画(第9期介護保険事業支援計画)」を策定しました。本計画は、高齢化がさらに進み、高齢単独世帯や高齢夫婦世帯の増加、認知症の増加といった介護支援ニーズのさらなる増加・多様化が想定される中、各地域の実情に応じた地域包括ケアシステムを構築することができるよう、中長期的な視点に立った施策の展開を図るための計画としており、次の基本目標を掲げています。

基本目標
高齢者をはじめとする地域住民が安心し、生きがいをもって暮らせる地域共生社会の実現に向けた取組の推進
●高齢者の自己決定を尊重し、その持てる能力を發揮しながら生活を継続できる支援の実施
●医療、介護、予防、住まい、生活支援が地域単位で提供される仕組みの更なる深化・推進(介護サービス基盤の計画的な整備)
●医療や介護サービス及び地域住民・自治会・NPO等が互いに連携したサービス・ケアの提供の推進

これらの課題に対し、地域の特性を踏まえた介護サービスの充実強化、高齢者の自立支援・重度化防止、多職種連携の推進、認知症対策の推進、介護人材の確保及び資質の向上並びに介護現場の生産性の向上、災害・感染症対策の推進など、地域包括ケアシステムの更なる深化・推進に向けた取組を進めていきます。

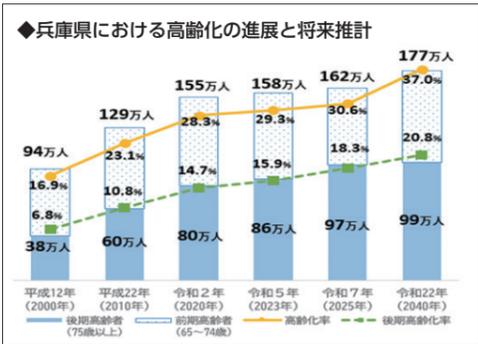
地域包括ケアシステムの更なる深化・推進

- 地域状況踏まえた介護サービスの充実・強化
定期巡回サービス及び看多機の普及に向けた事業者支援等により、地域の実情に合わせた介護保険施設及び居宅サービス基盤の整備を進めます。また、LIFE(科学的介護情報システム)の活用により、高齢者の自立支援・重度化防止の取組を推進します。
高齢者が地域で自分らしく暮らすための仕組みづくり
市町の重層的支援体制整備事業の実施支援、市町事業への伴走支援等により、地域共生社会の実現に向けた取組を推進します。また、地域包括支援センター職員の資質向上、人材確保や専門職育成支援等により、介護予防・生活支援の基盤整備を推進します。
医療・介護連携の推進
入退院支援、日常の療養支援、急変時対応、看取り等の場面ごとに、地域の関係者間の連携を推進するための体制整備を図るとともに、市町が地域に応じた取組を進められるよう支援します。

認知症疾患医療センターを中核とした、かかりつけ医等のネットワークを強化し、認知症の早期発見・早期対応の推進、切れ目ない医療・支援体制の充実を図ります。

現状・将来推計

令和5年2月1日時点の本県の総人口は539万2千人で、平成22年以降、減少しています。一方で、65歳以上の高齢者人口は157万9千人、75歳以上の後期高齢者人口は、介護保険制度が施行された2000(平成12)年当時の約38万人から85万9千人に増加し、今後も増加が見込まれます。



◆兵庫県における高齢化の進展と将来推計

介護保険法第118条では、都道府県は3年を一期とする介護保険事業にかかる保険給付の円滑な実施の支援に関する計画を定めることとされています。本計画は、老人福祉法に基づく老人福祉計画と介護保険法に基づく介護保険事業支援計画を一体的に策定した法定計画であり、市町の老人福祉計画(介護保険事業計画)の実現を支援する計画となっています。

計画の位置づけ

介護保険法第118条では、都道府県は3年を一期とする介護保険事業にかかる保険給付の円滑な実施の支援に関する計画を定めることとされています。本計画は、老人福祉法に基づく老人福祉計画と介護保険法に基づく介護保険事業支援計画を一体的に策定した法定計画であり、市町の老人福祉計画(介護保険事業計画)の実現を支援する計画となっています。

◆兵庫県における要介護認定者数の推移

区分 2023 2025 2040
要支援1~要介護5 33.9万人 35.1万人 39.6万人
認定率 21.5% 22.2% 23.9%
要介護1-5 21.5万人 22.2万人 25.7万人
認定率 13.6% 14.0% 15.5%
要介護3以上 10.3万人 10.7万人 12.6万人
認定率 6.5% 6.7% 7.6%

高い後期高齢者がさらに増加することから、認定率は徐々に高くなると見込まれます。県内の認知症高齢者については、令和2年時点で

高齢者住環境の整備

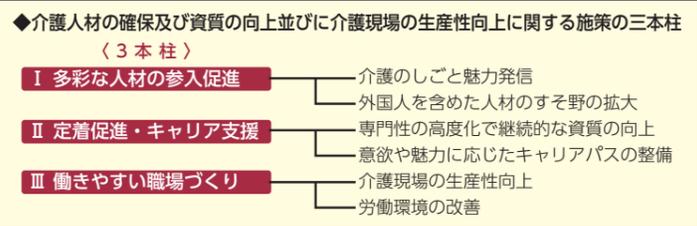
住宅改修業者登録制度の推進、バリアフリー改修経費の助成等により、高齢世帯の住宅の住み替えや確保といった住環境の整備を進めます。

介護人材の確保及び資質の向上並びに介護現場の生産性の向上

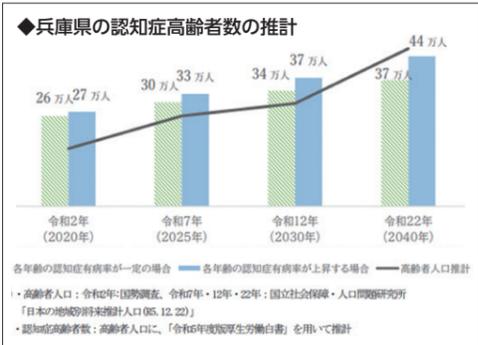
- 介護人材の確保対策の推進
民間事業者とも連携した外国人介護人材確保の推進、提供サービスの質の向上、介護福祉士資格の取得支援、小中高生等への介護の魅力発信等により、多様な人材の参入定着を促進します。
業務の効率化
「ひょうご介護テクノロジー」導入・生産性向上支援センターによる業務効率化の取組の総合的支援や介護ロボット、ICT導入助成等により、さらなる介護現場の生産性向上をめざします。

介護保険制度運営の適正化

適正化主要3事業(①要介護認定の適正化、②ケアプラン等の点検、③医療情報との突合・縦覧点検)については、市町・認定調査員・介護認定審査会委員等を対象とした研修の実施や伴走支援等により、介護認定におけるバラツキの平準化、適正化事業の実施促進、事業全体のさらなる質の向上等をめざして、市町の介護保



約26~27万人(高齢者の約16.7%~17.5%)であり、令和7年には約30~33万人(高齢者の約18.5%~20.0%)になると見込まれます。
なお、推定認知症有病率は70~74歳は3.6%、75~79歳は10.4%、80~84歳は22.4%、85歳から89歳は44.3%、90歳以上は64.2%であり、年を重ねれば、誰もが認知症になる可能性があることを示しています。



◆兵庫県の認知症高齢者数の推計

主な課題

こうした現状、将来推計等を鑑みると、本計画期間中に取り組むべき課題として、①介護サービス基盤の計画的な整備、②地域共生社会の実現、③多様な介護予防・生活支援サービスの確保に向けた体制整備、④高齢者の保険事業と介護予防の一体的実施、⑤認知症施策推進大綱を踏まえた認知症施策の推進、⑥高齢者が安心して自分らしく暮らせる居住環境の実現、⑦介護人材確保及び介護現場の生産性向上があげられます。

険事業運営の適正化を支援します。

高齢者が持てる力を発揮し、生活を継続できる支援

人口が減少し、団塊の世代がさらに高齢化する一方で、生産年齢人口の減少が見込まれる中、元氣な高齢者には社会の支え手として引き続き活躍していただくことが期待されています。高齢者の持てる力を活かす場の確保のため、高齢者の就労や地域参加、生涯学習をさらに推進するとともに、高齢者の健康・生きがいづくりや地域支援活動を行う老人クラブへの支援等を行います。
また、高齢者が安全、快適に活動できるまちづくりを推進するため、「ユニバーサル社会づくりの推進に関する条例」に基づく公共施設、公共交通機関のバリアフリー化や交通安全・特殊詐欺対策・災害・感染症対策を推進します。

おわりに

地域包括ケアシステムの更なる深化・推進のためには、地域共生社会の実現をめざし、地域のめざすべき方向性・目標(ビジョン)に沿って、市町が中心となって専門職や地域住民等が相互に連携し、高齢化の実態や社会資源に応じた積極的な取組を進めることが必要です。県では、高齢者が住み慣れた地域で安心して自分らしい生活を送れるよう、本計画に基づき、市町支援を含めた様々な施策を進めてまいります。計画を実現するには各事業者の皆様にもその趣旨をご理解いただき、それぞれの立場で取り組んでいただくことが重要です。本計画は県HPに掲載しておりますので、ぜひ一度ご覧いただければ幸いです。

阪神ブロック

- 10月24日 第2回施設長・意見交換会
「人材について・生産性向上(ICT)について・加算について」
- 10月2日 養護老人ホーム情報交換会
「各施設で抱える課題や疑問について」

東播磨ブロック

- 8月7日 第1回職員研修会
「認知症は介護が引き受ける」
講師:生活とリハビリ研究所代表・一般社団法人考える杖代表理事
理学療法士 三好春樹氏
「介護現場で楽しめる介護紙芝居」
講師:紙芝居制作実演家・介護福祉士 ピーマンみもと氏
小野市うるおい交流館エクラにて
- 9月26日 第2回職員研修会
「暮らしから考える排泄ケア 明日からできること」
講師:(株)はいせつ総合研究所 排泄用具の情報館むつき庵 副所長 熊井利将氏
小野市うるおい交流館エクラにて
- 11月12日 第3回職員研修会
「元気になる介護セミナー～働きやすい職場を私達で作るための7つの勘所～」
講師:元気になる介護研究所代表 介護アドバイザー 高口光子氏
小野市うるおい交流館エクラにて
- 12月4日(水)～5日(木)2日間 第4回職員研修会
「おむつフィッター3級研修 基礎編」
講師:(株)はいせつ総合研究所 排泄用具の情報館むつき庵 副所長 熊井利将氏
小野市うるおい交流館エクラにて
- 1月17日 予定 第5回職員研修会
「ノリフティングケア」
講師:一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワーク 理学療法士 下元佳子氏
小野市うるおい交流館エクラにて

西播磨ブロック

- 9月13日 職員研修会
「認知症介護基礎研修」
講師:松原宏樹氏
- 1月15日 予定 施設長・管理職研修会
「介護職の外国人労働者制度の変遷とこれから」
講師:行政書士 藤本征典氏

姫路ブロック

- 9月25日 法改正に対応した契約書・重要事項説明書の解説
講師:大倉山法律事務所 弁護士 多田 徹氏
- 11月18日 ケアプラン研修
「計画作成にあたっての留意事項」
講師:姫路・勝原ホーム 統括事務長 藤原重樹氏
- 1月開催予定 介護・医療連携研修
「姫路市におけるACP取り組み」
講師:姫路市医師会へ依頼予定

但馬ブロック

- 10月29日 看護職員研修会
「摂食・嚥下のメカニズムと介護施設における食事ケアのポイント」
講師:Seat Table代表 言語聴覚士 笠井幸子氏
但馬長寿の郷
- 10月29日 事務業務研修会
「組織マネジメントと人材・・・人を育て成果を出す優れたリーダーになるために」
講師:G.S.Study代表 柴田悟一氏
特別養護老人ホーム楽々むら

丹波ブロック

- 12月2日 特養部会研修会
「ヨガ」
講師:ヨガ・インストラクター モデル CHIEF氏
- 2月14日 予定 養護部会研修会(但馬ブロックと合同研修会)

淡路ブロック

- 11月18日 ケアプラン研修会
「ケアプラン作成の理念」「ケアプラン作成の基本と留意点」
講師:特別養護老人ホームたちばな苑 介護支援専門員 堀井伸浩氏
特別養護老人ホーム千鳥会ゴールド 介護支援専門員 原 稔頭氏
- 11月22日 給食関係研修会
「給食等の施設PR用スマホ写真の撮り方&SNSの実践活用術」
講師:HANAGUMI Photo&Flower 主宰 船積裕子氏
- 12月12日 リスクマネジメント研修会
「福祉施設におけるリスクマネジメントの課題」～事故予防と対応2つの視点～
講師:SONPOLリスクマネジメント株式会社 医療・介護コンサルティング部 泉 泰子氏

部会・委員会通信

◎ 介護保険推進委員会

介護報酬改定の影響調査を実施・分析したものをホームページに掲載しております。又本調査に基づき厚生労働省と意見交換を行いました。(詳細は、後日発行のかけはし号外に掲載予定)

◎ サービス評価委員会

令和6年度サービス評価事業を実施しています。(本年度評価10施設)

◎ 介護人材確保推進委員会

将来の担い手となる中学生・高校生・大学生やその保護者や未就労者に向けて、介護業界のPR広告を、SNSを活用し、11月～2月まで複数回配信する予定です。今年度も、中学校・高等学校からの依頼に応じ、介護の仕事の魅力や伝える「出前授業」を継続し実施、県内中学校1年生へは「楽々介護」、県内高校1年生には「わたしを叶える。」のパンフレットをそれぞれ配布しました。また、介護福祉士養成施設2校で「就職前プレゼンテーション」を実施しました。

◎ 調査研究委員会

R6年度も前年度に引き続き、当業界の継続的な課題である「人材の確保・定着及び人材育成、労働環境・処遇改善等」をテーマに掲げて進めています。今年度はアンケート結果に基づく課題発掘と対策の検討及びベスパラ施設訪問による取組状況の確認等を行い、12月20日の「ベスパラ施設取組事例発表会&関連セミナー」でその取組について会員施設の皆様への紹介等を実施しました。

◎ 編集委員会

会員施設の新たな取り組み等の情報をお寄せください。「かけはし」に取り上げさせていただきます。特集記事のテーマも募集します。かけはし120号発行は3月を予定しています。

◎ ケアプラン委員会

第1回目は10月18日に実施し、第2回目は11月25日に実施し、第3回目は年明け1月23日に実施予定です。

◎ 研修委員会

今年度開催した研修は以下の通りです。
①生産性の向上セミナー(7月29日)、②人生の最終段階に向けての県民フォーラム「終末期の過ごし方、あなたは考えたことはありますか?～縁起でもない話をはじめよう～」(11月19日)、③人生の最終段階における対応向上研修「終末期ケアとグリーフケア」(12月3日)
法定研修としては次のA～Dの配信を行いました。
A.プライバシーの保護の研修、B.倫理・法令遵守に関する研修、C.従事者に対する医療に関する研修、D.精神的ケアに関する研修、A・Bは配信終了、C・Dは3月末まで配信中です。
また、介護支援専門員実務研修受講試験対策助成事業として、Web配信教材や統一模擬試験(在宅受験)の費用負担(半額助成)を実施しました。
※1月27～28日、施設長研修会を予定しております。ご参加お待ちしております。

◎ 養護部会

12月4日に兵庫県から「県内の養護老人ホームの動向」、カトリック聖ヨゼフホーム平岡総合施設長から「これからの養護老人ホーム」について研修会を開催しました。

◎ 軽費・ケアハウス部会

12月16日軽費・ケアハウス部会研修「ケアハウスの困難事例(認知症)について～事例検討から学ぼう～」を開催しました。

◎ デイ部会

1月14日デイ部会研修「今の時代のレクリエーションについて」をテーマに研修会を開催します。

◎ 地域サポート施設推進事業

12月12日に、県による令和7年度認定施設募集要項説明会を行いました。また、今年度は、県社協による「ほっとかへんネット」と「地域サポート施設」の両方に登録している事業所に事例発表をしていただき、テーマに沿ったグループワークを行いました。

令和6年度 生産性の向上セミナー 『誰も知らない!?失敗しないテクノロジー導入の本質』

令和6年7月29日(月)開催 場所 WEB研修

令和6年度の介護報酬改定のポイントの一つである「良質なサービスの効率的な提供に向けた働きやすい職場づくり」のなかで、生産性の向上を通じて働きやすい環境をつくるのが求められている。

各事業所が働く環境改善に積極的に取り組むことができるよう、講師に社会福祉法人弘陵福祉会理事長の溝田弘美氏をお招きし「誰も知らない!?失敗しないテクノロジー導入の本質」と題しWEBによるセミナーが開催された。

冒頭で、日本の労働生産性の国際比較などの報告があり、続いて「なぜ介護テクノロジーを導入するのか」20年後の介護等について説明をいただいた。

その後、溝田氏が理想とする介護の実現に向け、「利用者ファーストのための職員ファースト」をコンセプトに2003年から取り組まれたノリフトケアの導入について紹介された。ノリフトケア導入のステップとして次の点を示された。

- 1 組織の意識と文化の変革
- 2 スタッフの教育とトレーニング
- 3 ケアプロセスの見直し
- 4 適切な設備と道具の導入
- 5 チームの協力とコラボ
- 6 継続的なモニタリングと改善

の診断者が56%から9%に減少するなど双方に効果が見れている。また、働きやすさの向上から離職者の減少にもつながっている。

次に、介護テクノロジーとの組み合わせによる業務改善について紹介された。

「入浴業務の改善」利用者を楽ししいレクリエーションをすることをコンセプトに、リフトとファインバブル発生装置やナノミストバス等の入浴機器を導入し、配置人数を導入前の半分に削減することができた。

「夜勤業務の改善」楽しい夜勤にした、い「をコンセプトに見守り機器を導入し、余裕時間の増加、訪問回数の減少、夜勤に対する不安解消等の効果が現れた。生まれた余裕時間で車いすの洗浄を行うなど効率的に時間を活用できている。

生産性向上に取組むにあたり、ビジョンが明確になっていることが最も重要であると結ばれた。

今回のセミナーを通じ、人材不足の介護業界で離職者を減らすには、生産性の向上が必要であり、各事業所がロボットやテクノロジーの導入など生産性の向上に向けた取り組みを進めるためのきっかけになると感じた。



編集委員 山下和秀

令和6年度 法定研修 配信

兵庫県老人福祉事業協会HPでは、有意義で役に立つ法定研修を、Webで無料受講することができるよう。

6月の「従事者に対する医療に関する教育、研修」では、老人看護専門看護師医療法人実風会新生病院看護部長 鶴屋 邦江氏による「高齢者の病気の見方と対応」が令和7年3月末まで閲覧できる。以下のような内容となっている。

高齢者の病気の老化もあり、非定型的で完治が難しい。治療が有害になることもある。人生の最終段階である高齢者には、最期まで尊厳を持って生きることを支援するため、その意思を尊重した医療とケアの提供が必要である。自ら訴えることが難しくなるため、多職種連携し早期発見、早期対応も欠かせない。具体的には、認知症、老化に伴う恒常性維持能力や臓器機能の低下について正しく理解し、脱水、便秘、薬物有害事象、摂食嚥下障害と誤嚥性肺炎を予防することが大切である。

7月には、明石の佐藤健宗法律事務所、三好登志行弁護士による「プライバシー保護・倫理および法令遵守」に関する法定研修が行われた。研修動画を2か月間限定でHPに掲載した。研修は以下の内容であった。

個人情報には価値があり、保護されなければならぬ。プライバシー(他人に知られたくない情報)の歴史は浅く、その範囲は変化していく。個人情報保護法では、氏名、写真など本人を識別する情

報を①同意を得た目的外に無断で使用すること②第三者に提供すること③適切な管理を怠った結果、漏洩などすることを禁止している。リスクの高いSNSの利用については、私用は厳禁、法人の広報・リクルート・利用者の親族への発信のためだけに利用する、というルールを作り、判断に迷う場合は個人で判断せず、管理者や専門家に相談することが望ましい。

倫理、法令遵守とは、他者に対する共感、配慮、尊重である。身体的にも、心理的にも相手を傷つけないことが大切であるが、例えばクレームに対して、礼節をもって通常の振る舞いを行えば過剰に配慮する必要はない。法律は一定の目的を実現するための道具であり、利益調整のための道具でもある。ハラスメントや個人情報、IGBTQや合理的配慮などの定義も変化するため、対応し続けることが生き残る道であることを自覚する必要がある。

11月末からは、精神科認定看護師 医療法人財団光明会 明石こころのホスピタル 藤本清司氏による「精神的ケアに関する研修」を配信している。高齢者ご本人、ご家族、ケアをする介護現場職員の間、気持ちを受け止める対応の仕方について学べ、令和7年3月末まで閲覧できる。

今年度より始まった精鋭講師陣による法定研修の配信を法人内研修として是非多くの方々に活用頂ければと思う。

編集委員 浅井愛子

特別養護老人ホーム むれさき苑



特別養護老人ホーム／姫路ブロック



社会福祉法人 尚紫会
特別養護老人ホームむれさき苑

施設長名 高野 朝光 定員数 60名
住所 〒671-0247 姫路市四郷町東阿保44
TEL 079-283-6861 FAX 079-283-6868
muresaki@themis.ocn.ne.jp
併設事業 短期入所生活介護、ケアハウス、通所介護、
居宅介護支援事業所

特別養護老人ホームむれさき苑は、介護保険制度が実施される四年前の平成9年に開設され、介護保険制度の開始を挟んで今年で二十七年の歴史を刻んでいます。

施設は姫路市を流れる市川の東岸にあり、市の中心市街地から数キロの近さにある一方で、里山と川に囲まれた豊かな自然環境も持っています。

開設以来、利用者の尊厳を守る、共生、地域との連携などの基本理念に則り、社会から求められる福祉事業を行っています。

近年は、基本理念の利用者の尊厳を守るため、外部講師を呼んだ接遇研修やアンガーマネジメント研修などを実施、また褥瘡予防、感染症予防、拘束虐待防止などの委員会活動を活発に行っています。

います。昨年からは保護猫の飼育を始め、猫の手も借り隊のむれさき隊長(隊員無し)として、職員や利用者から親しまれています。今後も社会から求められるサービスを提供してまいります。



但東デイサービス センター



通所介護／但馬ブロック



社会福祉法人 豊岡市社会福祉協議会
但東デイサービスセンター

施設長名 堀江 優子 定員数 30名
住所 〒668-0311 豊岡市但東町出合433-1
TEL 0796-53-4111 FAX 0796-54-0884
zaitakuhokusika@toyooka-wel.jp

但東デイサービスセンターは、豊岡市内の南にある自然豊かな但東町で、豊岡市社会福祉協議会が、定員30名の通所介護事業として運営をしています。ご利用者が住み慣れた地域で安心・安全な暮らしができるよう、生活の一部をサポートさせていただいています。

職員はご利用者がやりたいと思う事に寄り添い、ご自身で出来るよう支援しています。



者が一緒に楽しむことで味わえる一体感を大切にしています。最近では、職員が試行錯誤を重ねながらノーリフティングケアも行っており、ご利用者にとって、より良いサービスを提供するために、職場環境の改善にも取り組んでいます。

伊丹南野ステップアップ デイサービスセンター



通所介護／阪神ブロック



社会福祉法人 伊丹市社会福祉事業団
伊丹南野ステップアップデイサービスセンター

施設長名 阪本 真一 定員数 34名
住所 〒664-0865 伊丹市南野2丁目3番25号
伊丹市立生涯学習センター3階
TEL 072-781-5670 FAX 072-781-5671
minami-k@jigyoudan-itami-hyogo.jp

「伊丹南野ステップアップデイサービスセンター」はご利用者様の思いを大事にした、リハビリ特化型のデイサービスセンターです。事業所名にもあるように現在よりもステップアップできるようにとの思いで、理学療法士や介護福祉士、看護師などの多職種が連携し、運動を通じてご利用者の自立に向けたリハビリメニューの提供に努めています。利用プログラムについては、自宅でも運動を行えるように運動の自主性を取り入れています。理学療法士による個別リハビリを中心に、1日のリハビリメニューは作成せず、その日の体調や個々の目標によって運動内容をご自身で決定していただくようになっています。

の意欲や頑張りにもふれることで、仕事のやりがいや楽しさを感じています。法人の理念である「豊かな明日へあなたとともに歩みます」のもと、これからもご利用者様、ご家族様とともにリハビリを通じて豊かな明日へともに歩んでいくように取り組んでまいります。



特別養護老人ホーム 友愛園



特別養護老人ホーム／東播磨ブロック



社会福祉法人 友愛の里
特別養護老人ホーム 友愛園

施設長名 小森 秀一 定員数 50名
住所 〒674-0051 明石市大久保町大窪2603-550
TEL 078-934-5028 FAX 078-934-5029
info@yu-ai.or.jp
併設事業 短期入所生活介護・通所介護・訪問介護・
居宅介護支援事業所

特別養護老人ホーム友愛園は、介護保険制度がスタートする前年の平成11年に開設し、地域の皆様に支えて頂きながら、今年で開設25周年を迎えました。明石市北西部の閑静な緑あふれる地域に位置し、目の前には、木々に囲まれた大きな池には、水鳥がたくさん飛来することから、市内でも有数の野鳥観察スポットとなっています。

当法人では「限りなく家庭に近い生活を送れる介護の実践」を理念のひとつに掲げ、日々心穏やかに過ごして頂けるように、温かく家庭的な環境づくりに努めると共に、今まで歩んでこられた歴史や生活との連続性を配慮したケアの提供を目指しています。



型特養と70床の養護老人ホームが隣接しており、各施設間で連携を図りながら、それぞれの機能を活かした支援を行っています。地域との関わりを大切に、地域における高齢者福祉の拠点となる様に職員一同努めています。

事務局からのお知らせ

優勝旗の寄贈

「第12回兵庫県高等学校福祉教育フェア2024」が令和6年7月30日に兵庫県立日高高等学校で開催されました。このフェアは福祉を学ぶ県内の高校生(公立高等学校福祉科設置校3校 日高高等学校、龍野北高等学校、武庫荘総合高等学校及び教科福祉を学ぶ学校 多可高校、三木東高校、飾磨高校等)が交流することで、兵庫県の福祉を元気で明るくできるように意識を高め、親睦を図ることを目的に開催されています。

兵庫県老人福祉事業協会は、介護業界の将来の担い手の高校生の熱い想いを応援するため、兵庫県高等学校福祉部会介護コンテストに優勝旗を寄贈いたしました。

この大会で優勝した兵庫県立日高高等学校は、その後、近畿大会においても優勝し、全国大会では厚生労働大臣賞を受賞しました。

兵庫の高校生がますます活躍できるよう応援していきたいと思っております。



◆◆◆青年部会 会員募集中◆◆◆

(入会条件)

正会員 50歳以下の施設長もしくは施設長の推薦する50歳以下の施設職員
年会費：5,000円

賛助会員 会の趣旨に賛同し、ご支援いただける方
年会費：10,000円

(目的)

老人福祉の増進と老人福祉事業推進のために、老人福祉事業後継者としての研鑽と会員相互の親睦をはかることを目的とする。

入会お待ちしております!
入会についてのお問い合わせ、
並びに申込書送付は下記、
青年部会 事務局まで。

【青年部会 事務局】

特別養護老人ホームヘルシービラ加美 藤岡 TEL(0795)35-0777

県老協加入施設数

R6.12.1現在

	特 養	養 護	軽 費	ケア ハウス	デイ サービス	計
阪 神	69	5	0	21	67	162
東播磨	62	6	1	18	70	157
姫 路	40	3	0	8	40	91
西播磨	28	5	0	2	34	69
但 馬	25	3	0	6	38	72
丹 波	11	3	0	3	11	28
淡 路	21	4	0	2	18	45
計	256	29	1	60	278	624

※ 賛助会員 1事業所(内訳:団体)

編集後記

全国で10万人近くの救急搬送者を出した今年の猛暑がやっと去ったと思ったらもう新しい年が目前となりました。2025年は巳年、「成長と変革の年」だそうです。困難を乗り越えて新たな段階へ進む縁起の良い年にしたいものです。会員事業者の皆様も良いお年をお迎え下さい。来年も会員の皆様にとって有益な情報の収集と提供に努めて参りますのでよろしくお願いいたします。